

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東海)	良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・東京オリンピックの開催に向けて、景気が良くなっている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・高額品に加え、趣味・雑貨系の商品の動きも良くなっている。
		衣料品専門店 〔紳士服洋品〕 （売場担当）	競争相手の様子	・前年の消費税増税から1年がたち、周辺の同業他社の状況を聞くと、今月の売上は前年比で2けた増加と大きく伸びている。当社の売場でも、同様の結果となっている。
		乗用車販売店 （従業員）	お客様の様子	・販売量の動きが良く、客の問い合わせも多い。例年であれば3月の方が売上は多いが、なぜか4月の方が多く、とにかく今月は調子が良い。
		その他専門店 〔雑貨〕（店長）	来客数の動き	・4月中旬に新店舗が開店し、新しい環境での比較となるが、来客数が増加している。
	やや良く なっている	一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・相変わらず安い商品が人気はあるものの、以前は2千円だった客の予算が3千円へと上がっている。高額商品も、少しずつ動くようになってきている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・2～3か月前は平均単価が3万円以下の商品が売れていたが、今月になってから5～8万円くらいの高額商品が売れている。来客数は変わらないが、売上は増加している。
		百貨店（経理担当）	販売量の動き	・販売量並びに売上高が、僅かながらも増加傾向にある。
		百貨店（販売担当）	単価の動き	・来客数はやや減少しているが、価格重視から良質な物を購入する傾向にシフトがみられるため、客1人当たりの購入単価が上昇している。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・百貨店の紳士靴売場には、来店者が多い。最も消費が後回しとなる紳士用品の客の増加は、景気が良くなっている表れである。人手不足が小売業にも広がり、就業者も時給が高いところに移るので、中小企業も賃金を上げざるを得ない。失業率も下がり、全体的に景気は良くなっており、徐々に明るさが見えている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・前年に消費税増税による駆け込み需要があったにもかかわらず、3月の売上は前年比で99%、4月に入ると更に伸長し、同じく115%で推移している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数も1品単価も上昇しているため、売上也増加している。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・乳製品等を値上げしたが、販売量に大きな変化は見受けられない。チラシを入れなくても2月の来客数を上回っているため、状況は悪くない。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・4月は長雨が続けているが客足への影響は少ない。野菜の値上がりもあり、売上は全体的に増加している。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・店舗の売上が前年同期を上回るようになっており、良くなっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・自社キャンペーン、メディアを活用した販促活動等の徹底と、買い合わせを促進する品ぞろえの強化で、来客数の伸びは低いですが、客単価が大幅に上昇している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年4月にたばこの値上げが実施されてから、来客数、売上共に前年割れが続いていたが、今月は、来客数、売上共に、前年同月を2～3%上回っている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・4Kテレビや4Kビデオカメラは思うように売れないが、白物商品が堅調である。高い商品でも、品質が良ければ売れる。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・客単価は変わらないが、客足が良くなっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響がなくなっている。
住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・住宅関係のリフォーム、持家住宅が上向いている。公共施設関係についても、相変わらず受注が多い。		
その他専門店〔書籍〕（店員）	単価の動き	・新入学用品の購入が目立つ。特に、祖父母と孫との来店が多く、客単価と売上が少し上昇している。客によって単価の差はあるものの、高級商材の動きが好調である。		

	その他専門店 〔貴金属〕（営業担当）	お客様の様子	・前年に比べて購買数が増加している。
	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・定期的な大口注文が、増加傾向にある。
	都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・宿泊需要は強い。客単価も若干上昇している。しかし、宴会需要の動きは鈍い。
	旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・2月頃に比べれば、客の様子が少し明るくなったような気がする。
	旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・6月以降の夏休み企画商品の問い合わせが多くなっている。客が商品を選んでいる様子がうかがえ、期待ができる。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・新規契約数は微増だが、解約数が前年の半分程度と、最近ではみられない傾向になっている。
	通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・引っ越しシーズンのため、移転に伴う光回線への切替え注文が増加している。また、光回線コラボレーションの開始により、他社からの乗換えが増加している。
	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・機器の販売量が生産能力を上回る時があるほど、増加傾向にある。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客にゴールデンウィークの予定を聞くと、近場ではあるが遊びに行く人が多い。少しずつではあるが、景気は良くなっている。
変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は少し増加しているが、客単価が低いので、販売量や売上高の動きにはつながらない。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・家電店にとって最重要商品であるエアコンの動きが良くない。前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動とは思われるが、前年同期の半分程度の販売量である。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・ここ数か月、客には購買意欲が見受けられるが、依然として客単価は低く、売上が増加しない。
	一般小売店〔結納品〕（経営者）	販売量の動き	・小売業では、なかなか景気が上向かない。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・遷宮が終わり、最近では市街地も随分と静かになっている。
	一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・飲食店への客足は依然として回復していない。日によっては来客数が開店から閉店までゼロという店がまだまだある。
	一般小売店〔薬局〕（経営者）	来客数の動き	・ここ2～3か月、天候不順の影響が非常に大きく、客足がパタッと落ちている。売出しイベントを行うと少し良いが、連休も近づき、店内は一層閑散とし、店員だけが目立つ店もある。3か月前も景気が良かったわけではないので、商売仲間も完全にあきらめムードである。
	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・全体としてはバランスが取れて変わらない状況であるが、中身が変わっている。製造業を中心に調子の良いところの販売量が増加しているが、物販関係や個人客は財布のひもが固くなっており、そこからの売上も減少している。特に中小企業の方では、まだ売上増加には至っていない。
	一般小売店〔自然食品〕（経営者）	お客様の様子	・前年との比較では少し売上が上昇しているが、客の購買意欲の変化は、数字に表れるほどではない。
	一般小売店〔食品〕（経営者）	単価の動き	・原材料価格の上昇がなかなか止まらない状態で、商品値上げも難しいのが現状である。客の収入が増加しても物価上昇に追い付いていないため、低価格品へ購買は移っており、量的にも抑えた買い方が目立つ。売上増加にはなかなか結び付かない。
	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・前年同期比で見ると2けたの伸びで推移しているが、まだ3月のマイナス分を取り戻せていない。4月中旬まで雨天が続いた影響もあり、春物衣料品の動きが鈍い。
	百貨店（販売担当）	単価の動き	・高額品と低価格品の動きはあるが、中間帯の商品の動きが鈍い。本来は消費を支えて活性化させる中心価格の商品と中間所得層の動きが一向に活性化しない。その要因は、円安や株価高の恩恵を受けていない企業では業績が改善していないことにあり、この傾向から改善の兆しが見えない。

百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・前年には消費税増税の反動減があったため、4月に入って前年同期比ではプラスで推移しているが、前々年との比較では微減となっており、前月までの流れから、大きな変化はない。
百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・天候不順による来客数減少の影響で、主力商品である春物、ファッション衣料品の落ち込みが大きい。一方、インバウンドが好調に推移しているため、プラスマイナスではゼロという状況である。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・客は、一時期のじり貧状態に比べると下げ止まったと言っている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比97%前後と、低迷が続いている。競合先の出店や改装の影響が大きい。また、購入点数も伸び悩んでいる。
スーパー（店長）	単価の動き	・1品当たり単価は上がり続けているが、客単価が上がらない。買上点数の伸びが非常に小さく、鈍化から徐々に横ばいという状況になっている。
スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・衣料品は前年比105%、食品は同じく109%で推移している。前年の消費税増税後の買い控えを考慮すると、今月は、前年比125%以上をクリアしなければならないが、現状の数字では、景気が良くなっているとは言えない。
スーパー（販売担当）	来客数の動き	・来客数が増加していない。
スーパー（営業企画）	お客様の様子	・品質重視の購買が定着してきている。価格訴求型の商品は敬遠され、品質を伴ったお買得品が支持されているため、結果として1品当たり単価が前年に比べて上昇している。特に4月は、消費税率引上げによる反動減が前年にあつたため、前年比で見れば、良い数字となっている。
コンビニ（企画担当）	それ以外	・有効求人倍率等の動きが変わらない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年同期に比べて、来客数は相変わらずマイナス20人程度で推移している。
コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・ポイント戦略の効果が思うほど出ていない。おにぎり等の値引きセールへの反応は高い。ベースアップ等、景気の良いニュースが飛び交うが、他店がセール企画を行うと、そちらへ客が行ってしまう。必要以上に金を使わない節約意識が強く、財布のひもを固くしている印象である。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・ガソリン価格が安定しており、やや良いと感じる。車の買換えやナビの買換え等、修理ではなく購入という傾向も強くなってきている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年は消費税増税による受注の落ち込みが大きかったため、前年比ではプラスとなっている。しかし、計画数字に対しては大幅なマイナスであり、新型車種投入の効果もまだ弱く、客にも活気はみられない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・少なくとも販売量が上向きではないため、景気は変わっていない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月という年間を通して一番厳しい月で、エコカー減税も縮小してはあるが、新車投入効果もあり、例年並みで推移している。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・もともと4月は良くなく、例年通り良くない状態が続いている。
その他専門店 [雑貨]（店員）	お客様の様子	・景気の踊り場では、これからどちらに振れるか様子見で、今一つ消費マインドが盛り上がらない。
その他小売 [ショッピングセンター]（経理担当）	販売量の動き	・3月分を締めた数字で見ると、売上高は前年同期比で22.3%マイナス、来客数は同じく14.3%マイナスである。例月に比べるとかなり悪いが、前年同月には消費税増税前の駆け込み需要があつたためであり、特別視はしていない。
高級レストラン（役員）	来客数の動き	・春の歓送迎会での来客数、客単価は前年並みであった。株価は最高値を更新しているが、景気の回復感から見るほどは、客の懐具合は良くなっていない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・郊外店ということもあり、新規客の来店は見込めない。近所の客が来るだけで、来客数に変化はない。

観光型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・数字的には前年同期を下回っているが、単発の大型宴会があったので、何とか予算をクリアするだけの見込みはある。食堂については、各店舗とも昼のツアー団体と小グループの利用が少なくなっており、厳しい状況となっている。
都市型ホテル (経営者)	単価の動き	・競争が激しく、販売単価が上げられない。
旅行代理店(経営者)	それ以外	・輸出型の輸送機器製造業等は、確かに円安の恩恵を受けているが、下請先にはまだまだ回っていないと言えない。タクシーの日収は、一時期には3万円に達したが、現状はそこまで回復していない。繁華街でも、店舗の3分の1は、明かりはついていても閉店休業状態である。法人のタクシーチケット利用が減り、接待も減っていく中で、縮小均衡に陥っている。
旅行代理店(従業員)	それ以外	・旅行の申込件数は目立って増えてはいないが、インバウンドの旅行需要が爆発的に増えていて、首都圏や大都市のホテルは満室状態となっている。宿泊施設や観光地は上向きかと思うが、インバウンドを扱っていない旅行会社にとっては、その需要の動きは逆効果である。
旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィークは海外への旅行者が多い時期であるが、海外情勢への不安が大きく、来客数が増加せず、販売量は減少している。
タクシー運転手	お客様の様子	・今月前半は、平日の夜でも花見客や歓送迎会等があり、営業回数は伸びた。しかし、中旬あたりからは、また通常に戻ってしまっている。
タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前は年間で最も飲食店街の入出が少なかった時期だったので、その頃よりは上向いており、また、前年同期よりも良い。業績の良くなっている企業が増加したのか、法人のチケット利用が多少増加している。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・相変わらず商品の品質よりも価格に客の関心が向いている。また、解約件数も多いが、全体としては微増となっている。
テーマパーク (職員)	お客様の様子	・外国人の客が増加したが、日本人の客は減少している。北陸新幹線開通や長野善光寺の御開帳等、他県での行事が多い。
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・グリーンシーズンがスタートしたものの、客の入込が若干弱い状況である。
観光名所(案内係)	お客様の様子	・どこの店もリピーターが減ってきている。
ゴルフ場(企画担当)	来客数の動き	・4月前半は天候が悪かったため入場者数が伸び悩んでいたが、中旬以降は天候も回復し、順調に増加している。4月末には、前年度の実績をクリアし予算に近づく見込みである。
その他レジャー [スポーツレジャー紙](広告担当)	販売量の動き	・どこのレースも、売上増となっている。
美顔美容室(経営者)	お客様の様子	・季節の変わり目で肌を気にする客が多く、来客数が少し増加している。
美容室(経営者)	お客様の様子	・天候に大きく左右され、4月は雨天が多いため、客足が悪くなっている。
設計事務所(職員)	お客様の様子	・客が住宅を建てる際、希望する使用材料等について、数年前に比べて少し良い物を希望している。
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・契約数は横ばい状態が続いている。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・国の支援策が、今年は例年以上にあるにもかかわらず、客から今年購入すべきかどうかという問い合わせはない。
住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・取引先の業者が他社から依頼されている仕事量は、あまり減っていない。
その他住宅[不動産賃貸及び売買](経営者)	お客様の様子	・購入意欲の高い客が多いが、決定までの期間が長い。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	・今月は天候不順の要因が大きいですが、それを差し引いても駅構内の売店の販売が非常に弱い。客単価も来客数も落ち込んでおり、行楽シーズンで入出が多い割には、土産品の動きが弱い。ただし2個人等の食べ歩き商品は堅調である。

		商店街（代表者）	販売量の動き	・今月は前半が特に厳しかったため、後半はやや持ち直したものの、月間の売上としては過去最低レベルである。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・4月に関しては客足全体が少し減少している。年度替わりで何かと金がかかる時期なので、買い方も控えめという印象である。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年の消費税増税の裏返しで、4月はもう少し前年比の数字が伸びる見込みであったが、思ったよりも販売が伸びず厳しい。特に、弁当やドリンク等の主力商品が落ち込んでいる。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・4月は雨の日が多かったので来客数が少ない。生鮮品のような生活必需品ではないため、例年よりも寒い日が続く、初夏物の動きがあまりみられない。
		衣料品専門店（販売企画担当）	販売量の動き	・例年、夏物が動く時期だが、販売量が思わしくない。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・毎年4月は3月の決算月後の反動で販売量が落ち込むが、例年以上に落ち込んでいる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・自動車増税の影響で、新車の販売台数は予想通り落ち込み始めている。特に軽自動車については、計画の50%を割り込んでいる。また、工場への在庫台数も目標の90%で、前年と比べても落ち込んでいる。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・3月の税制改正により、自動車取得税の軽減措置が変わり、状況が厳しくなっている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・統一地方選挙の影響か、4～9月の上期の予約客の動きが鈍い。選挙が終わってこれから回復すれば良いが、夏の書き入れ時に前に心配である。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は、だんだん暖かくなり来客数も増加する時期であるが、客が来ない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・地元からの若年層の人口流出と、消費税増税の決定で客には心理的に動揺が続いている。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	販売量の動き	・障害者の就労支援施設では、一般企業から依頼される部品組立て等の仕事が、やや減少傾向にある。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	単価の動き	・介護保険法の改正により、福祉用具貸与の市場価格が下落傾向となっている。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・打合せ時の会話では、特に景気が良くなりそうな話は聞かない。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・来場客はあっても、購入には至らない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	お客様の様子	・ついで追加仕事は、どの案件でも減少し、客は金を使わない様子である。同業者の集まりでも、景気の良い話は聞かない。
	悪く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客には節約意識が強い。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・4月の前半は雨が多く客足が鈍り、売上が減少している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・3月期決算が終わり、また新しい自動車税制がスタートとなり、需要を喚起するものはほとんどない状況である。販売量の動きも鈍い。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・前年と比べて富士山世界遺産登録による当地域への関心が減っており、来客数が減少している。また、消費税増税前の駆け込み需要といった要因が今年はないので、かなり悪くなっている。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きが悪くなっている。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・数十年來のなじみ客も含めて、安い店に客足が流れている。
企業 動向 関連	良く なっている	金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・取引先の大型小売業では、食料品の客単価が前年比で増加している。食料品価格が上昇する中でも、客の買い控えは薄れつつある。
(東海)	やや良く なっている	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・売上が徐々に上向きつつある。特に、少し高品質なプレミアム商品に対する需要が高まっており、ようやくデフレからの脱却も進みつつある。
		化学工業（人事担当）	受注価格や販売価格の動き	・数か月前に商品価格が上昇した際は、消費が少し低迷したが、ベースアップ等の効果により、ここきて購買意欲が、以前の水準に戻ってきているように感じる。
		窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き	・3月の受注量が非常に多く生産が間に合わなかった分、4月の受注量も例年より多くなっている。

	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・オフィス需要は底堅く商談も増えている。受注までに時間はかかるが、期待を持てる。
	建設業（営業担当）	取引先の様子	・公共関係の受注と個人住宅からの受注で状況に相違があるが、4月工期の工事依頼や下水道切替えに対する工事を、前年度末に新規で受注し、工事量等が多くなっている。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・輸出貨物が増加している。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・荷物の発着個数は順調に推移している。単価も上昇しており、個数の増加が利益増となっている。
	金融業（企画担当）	取引先の様子	・今までは資産を保有している個人のみが恩恵を受けてきたが、ベースアップもあり、サラリーマン層でも消費拡大への安心感が出てきている。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折り込み広告の出稿量が増加している。
	行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の動きが順調である。
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・顧問先の決算内容を見てみると、バラツキはあるものの、黒字決算の法人が徐々に増えている。
	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・前年同時期と比較して、公共案件の件数が増えている。
変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・大企業は景気が良いと言われているが、中小企業は少しも景気が良くならない。
	出版・印刷・同関連産業（代表）	受注量や販売量の動き	・消費税増税後の反動減に対しては、減少分と同程度は回復したが、増税前に比べれば、まだ2けた割れの80%台半ばである。消費者に直結する中小店舗の経営状況は相当厳しい。
	化学工業（総務秘書）	それ以外	・世間的には決算期から期初を迎える時期で慌ただししい。企業業績は最高益更新というニュースも飛び込んでくるが、やはり大手企業が中心である。特段の景気上昇感を感じられないが、株価の2万円台到達により、ムードは少し明るくなっているように見える。
	金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・価格は相変わらず、低下している。受注量も減少しており、景気は悪い。
	一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年初には中国でのスマートフォン向け設備特需が続いていたが、それも落ち着き、例年並みの水準に落ち着いている。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の店舗で業務用チェアのリニューアル工事が続いているので、販売台数が増加している。
	電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・変化があるような要素が見当たらない。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ3か月は売上、受注量共に横ばい状態が続いている。
	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・3月初め頃には、4月の数字が大変悪くなると完成車メーカーから聞いていたが、実際には、3月下旬に予想よりは増産の発注が入ってきたので、多少は良くなっている。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年4月は消費税増税の影響で、荷動きが極めて低調であったが、今年もそれをやや下回る物量で推移していることから、荷動きは低調としか言いようがない。ただし、前年同月と比較すると、燃料の軽油価格が下がっていることから収支面では改善している。
	輸送業（エリア担当）	取引先の様子	・年明けから3月までずっと荷物の量は減少しており、前々年並の水準以下という日が多い。4月に入り新年度になっても持ち直すというわけではなく、3月までの流れをくんで荷物の量は少なく、景気は上向いていない。
	通信会社（法人営業担当）	それ以外	・良くなっていると判断できる材料が見当たらない。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月と同様に、売買件数は低迷している。
	不動産業（用地仕入）	競争相手の様子	・土地の入札で、入札金額には大きな変化がみられない。
	不動産業（管理担当）	それ以外	・ビルメンテナンスの受注価格が上昇していない。前年と同額でという要請を受けている。人件費も以前よりアルバイトの時給が低下している。アベノミクスの効果が表れていない。

	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・小規模案件の受注は増えているが、広告予算が抑えられているため、大型の提案がなかなか決まらない。	
	公認会計士	それ以外	・円安による原料高が中小企業の収益を圧迫している。また、金融円滑化の条件変更等、借入金の正常化が進んでいない。そういった中で、中小企業では賃上げができていない。	
	会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・売上、利益共に好調な顧問先が多いが、3か月前も同様であったので変わりはない。	
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・年度末に予算を使い切って発注が止まっている傾向はあるが、例年のような、6月決算時期まで生産が若干下がるような状況とは異なっている。競合企業でも全体的に楽観ムードが漂っており、ガソリン価格も安値が続いているので、心理的には楽な状態である。	
やや悪くなっている	化学工業（営業）	取引先の様子	・洗剤の業界団体が、容器包材プラスチック減量の取組を強化中である。衣料用液体洗剤やシャンプー・リンス等の容器は、詰め替え対応製品へ転換中で、洗浄剤ボトル関連の需要が減少する。	
	鉄鋼業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・中小企業の仕事は、量的には前年並みで推移しているが、金額的には、再見積要請等の影響で1～2%ほど下落傾向にあり、停滞感が大きい。競合業者間では、価格の引き下げ合いとけん制が続いている。	
	金属製品製造業（従業員）	取引先の様子	・例年落ち込む春先の需要は、当社はそれほどでもないが、取引先では前年よりも悪く、仕事が動かないという声が多い。	
	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	受注量や販売量の動き	・客の月次の生産計画数が低下している。	
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・輸入物流については、消費財の回復の遅れに加え、生産財部品の海外品から国産品への切替えが進行し、減少が続いている。軽油価格は落ち着いているが、人手不足も深刻な状況である。	
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・貨物の荷動きが緩慢になってきて、前年同期比でマイナス5.6%と落ち込んでいる。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車産業においては、中小企業を含む現在の生産量等を加味すれば、景気が特に悪いという情報もなく、ある程度先も見込めている状況で安定している。若干ではあるが、良い方向へ向いている。	
悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産開発では建築費の暴騰が著しく、販売価格が大幅に上昇している。一般のサラリーマンでは、持家を取得することが困難になる。	
雇用関連 (東海)	良く なっている	-	-	
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数の増加に加え、株価の上昇からも景気の回復を感じる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	雇用形態の様子	・国内の自動車生産は緩やかではあるが回復傾向にあり、人手不足を見据えて雇用を確保する動きも出ている。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・一般求人、パート求人共に就職件数は緩やかではあるが増加している。時期的、季節的要因を考慮しても、堅調である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・医療・介護分野では相変わらず人手不足が続いている。求人募集時の採用意欲も引き続き全産業で見られるが、正社員の求人数の伸びは鈍く、自動車等の製造業では、海外移転の影響が出ている。オートバイ関係は、前年暮れに底を打った感があり、北米を中心とする大型バイクの需要増加で、残業や交代勤務を復活している企業もある。
		民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・今期上半期の大手・中堅企業の採用数は、前期下半期に比べて140%以上の計画となっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	周辺企業の様子	・中小企業の支援事業を運営する中では、工場増設や販路拡大といった上向きの状況の企業が多く見受けられる。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新年度になって、有料職業紹介の求人数が減少傾向にある。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前に比べるとやや悪くなっているが、例年よりは良い状況である。	
	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数は、3か月前と比べれば2けた近くの伸び率を示しているものの、前年同期比では5%以上の減少となっており、実態としては、変わっていないと感じる。	

	人材派遣会社 (営業担当)	周辺企業の様子	・エンジニアの派遣事業において、企業の求人ニーズは常に高く、当面は現状維持が見込まれる。
	新聞社 [求人広告] (営業担当)	求人数の動き	・派遣社員の需要はあるが、正社員での広告掲載求人数は減少傾向にある。
	新聞社 [求人広告] (営業担当)	求人数の動き	・4月の求人関連の動きには、新入社員の配属と統一地方選挙が少なからず影響している。そのため控えめな動きの企業が多い。
	職業安定所 (所長)	周辺企業の様子	・大企業、中小企業の求人は減少し、5人未満の零細企業の求人が増加している。裾野の企業でも仕事量が増加しているが、求人はパート・契約社員での募集で、先行きの不透明感が出ている。大手企業では、非正規社員を正社員化する動きがあり、非正規社員の引き留め策として、月額単価を増額する企業もある。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・求人数の動きに変化はないが、業種ごとにばらつきがある。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・人手不足の分野では求人が循環して続いているが、全体では一服感がある。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・派遣スタッフの求人が減少し、製造業での直接雇用が増加しているが、直雇用であっても、パート・臨時雇用等、非正規雇用が全体の47.0%を占める状況を見ると、労働条件の改善にはもうしばらく時間が必要である。
	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・求人数は前年同期比で減少しているが、求職数も減少している。
	民間職業紹介機関 (営業担当)	採用者数の動き	・来年度の新卒採用活動が解禁となり、企業側は説明会や面接等に注力する時期のため、キャリア採用活動は、若干鈍化の傾向にある。
	その他雇用 [広告代理店] (求人広告担当)	それ以外	・景気が良くなっているような動きは感じられないが、悪くなっているわけでもない。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-